

TX

沿線狂歌

100

前書き

これは筆者が大学の演劇サークルで小倉百人一首にちなんだプロジェクトを行っていた頃、つくばエクスプレスが開通した記念にその沿線にちなんだ狂歌を百首つくったもの。

狂歌とはその形式は短歌に酷似しているものの、文学的には全く相容れないモノとして扱われている定型詩。現代でも人気のある川柳や都々逸と比べて大変不遇な死せる文化である。ちなみに、筆者青村豆十郎は現在世界でも十本の指に入る狂歌詠みであると自負している。

TX沿線百首を創る上で苦労したのは歌を詠むことよりもなによりも、百首分のテーマを選定することであった。友人たちにつくばや沿線地域の観光スポットや各種施設について調べてもらい最終的には横に挙げたような構成になった。

あれからもう相当な年月が過ぎ、TXの影響もあってつくばは大きく様変わりした。だから詠み込まれていないスポットが沢山できているし、逆に今では見られない風景も百首には詠み込まれているかもしれない。

百首の構成

- 《つくば駅》 五首
- 《県内 TXの各駅》 五首
- 《中央公園と周辺の施設》 五首
- 《松見公園と食いだおれ周辺》 五首
- 《大池公園と周辺史跡》 五首
- 《筑波山》 五首
- 《ショッピング》 五首
- 《つくばらしい風景》 五首
- 《公園通り》 五首
- 《筑波大学》 五首
- 《中央広場周辺風景》 五首
- 《つくばと並木道》 五首
- 《つくば市観光施設・商業施設など》 十首
- 《研究施設のある博物館》 五首
- 《イベントホール》 五首
- 《つくば的なモニュメント》 五首
- 《つくばみらい市》 五首
- 《守谷市》 五首
- 《嘉寿詠み語呂合わせ》 五首

つくば駅

1. 俺たちの時にはバスで受験さと 新入生に語る春先
(つくば駅 (春))
2. 地下道に早く降りたい炎天下 熱島各地へ帰省する友
(つくば駅 (夏))
3. 秋葉から下る電車のつくば駅 笑顔を連れて戻る人々
(つくば駅 (秋))
4. 人々の声はつどいて皆の駅 わずかに積もる今日の初雪
(つくば駅 (冬))
5. つくば駅いつもの人の乗り降りの 中にも見える四季の折々
(つくば駅 (四季))

TXの駅

6. 春雷やみらい平にふりそそぐ 雨に匂える都市の風
(みらい平駅 (春))
7. 夏の日のみどりの駅の野の果ての 芝の青々広がり続く
(みどりの駅 (夏))
8. 秋の日の柔き光に乙女らは 並ぶ柱に見え隠れする
(万博記念公園駅 (秋))
9. 交じり合いまた別れ行く人の列 師走の駅はじっと見守る
(守谷駅 (冬))
10. その駅は研究学園という名前 新しい街出発進行
(研究学園駅 (四季))

中央公園と周辺の施設

11. 春風に誘い誘われふらふらと さくら集まる公園の隅
(さくら民家園 (春))
12. 夏空のプラネタリウムに見入る子の 真横で親は寝たり起きたり
(プラネタリウム (夏))
13. 天高く馬肥ゆる秋空の先 越えてゆくよなH2ロケット
(H2ロケット (秋))
14. 色壁を背に池眺める恋人を さらに眺める小春日の昼
(水上レストハウス (冬))
15. つくば発知識の駅の行き帰り 知るを求めて創るを求めて
(アルス 中央図書館 アルスホール つくば美術館 (四季))

松見公園と食いだおれ周辺

16. 病院のそばの古書店立ち寄りて 活字中毒の薬を買い帰る春
(古書店街 (春))
17. 夏草や松見公園池の中 兵 鯉が我に群がる
(つわもの)

(松見公園 (夏))

18. 食欲にスポーツ行楽読書まで 悔いなく遊び倒すこの秋
(食いだおれ横丁など (秋))
19. カラカラと筑波下ろしが抜けていく 栓抜き穴に俺は立ってる
(松見展望タワー (冬))
20. くい倒れそう呼ばれてはいるけれど 学園都市の食を支える
(食いだおれ横丁 (四季))

大池公園と周辺史跡

21. 花筏越えて魚も音に聞く 春の盛りの堤の賑わい
(大池公園 (春))
22. 夏終わり平沢官衛訪ね見て 花の頃また来ようと思う
(平沢官衛 すぐ横に大池公園 (夏))
23. 幼な児をその病難より救わんと いわれ残れる子育観音
(慶龍寺 七五三の風景など (秋))
24. 衣打つ音は途絶えて久しくも 絹発祥の地とや伝わる
(蚕影山神社 (冬))
25. 筑波駅そんな石柱表示票 廃線跡に自転車走る
(つくばリンリンロード (四季))

筑波山

26. 浮世絵に見るがごとくの岩に梅 ひとあし早い春に浮かれる
(筑波山梅林 (春))
27. ロープウェイケーブルカーは人の道 牽牛織女にカササギの橋
(筑波山 七夕まつりなど (夏))
28. 三色の山がそのうえ錦着る 賑々しきや紅葉の秋
(筑波山 (秋))
29. 初筑波慣れない季語を詠みにけり

藍をなしたる二峰の山
(筑波山 遠景 (冬))

30. ^{とき}季節を越え万葉神代の時代まで 我をいざなうイザナギイザナミ
(筑波山神社 (四季))

ショッピング街

31. 突然の休講となりゃ浮かれつつ 少しの遠出でここLALAガーデン
(LALAガーデン (春))
32. 何気なく休日に見る蚤の市 地域の人と話す楽しさ
(フリーマーケット (夏))
33. 秋葉には45分でいけるけど それでもここにもほしい店々
(つくばの秋葉原 (秋))
34. 突然の話で決まる鍋パーティ 買出し班で連れ立って行く
(デイズダウンつくば (冬))
35. 駅を出てすぐのところ立ち並ぶ ショッピング街皆アルファベット
(a i a iモール、CREO、Q't、MOGなど (四季))

つくばの風景

36. 街中に川はなけれど春霞 かかる道路に橋がいくつも
(道路橋 (春))
37. 名も知らぬ公園のある帰り道 夏の夕日にブランコの影
(街区公園まで含めると115の公園 (夏))
38. 街中を少し抜ければ眼前に 実りの秋が収穫を待つ
(郊外の風景 (秋))
39. 見渡せば電線のない冬の空 ふくら雀が並びいる柵
(地下埋設の電線など (冬))
40. 詠み歌の続き探して踏むレンガ 遥かにつづくよペDESTリアン
(ペDESTリアンデッキ (四季))

公園通り

41. 春の芝眺めてベンチにいる方が 長い気がする散歩の時間
(洞峰公園 (春))
42. 童心に戻り立ち寄る公園で 気にせず浴びる水も視線も
(大清水公園 (夏))
43. ペデの端折り返し前にひと休み 小さな森にのまれてみます
(赤塚公園 (秋))
44. 風の子の声の間こえる小公園 暮らしの間にひっそりとある
(竹園公園 (冬))
45. 二の宮のオルゴール鳴る時計台 住宅街からかすかな音聞く
(二の宮公園 (四季))

筑波大学

46. 橋の昔の人の面影の 春日なるかな大学の跡
(春日キャンパス (春))
47. 夏の陽はまっすぐに射す講堂前 窪地に短き石柱の影
(大講堂前 (夏))
48. 一の矢を入る日暮れ時寂しさや ここに筑波の秋は来にけり
(一の矢宿舍周辺 (秋))
49. 自転車のスピード上げて過ぎ行けば 池を横切る大気冷たし
(松美池と大気の像 (冬))
50. 気が付けば学びの窓の先にある 雑木林に四季の営み
(キャンパス内の自然 (四季))

中央広場周辺風景

51. 居ながらに五感に感じる国際色 春の終わりにつくばフェスティバル
(つくばフェスティバル (春))
52. 海外に行ってみたことないけれど いつも乗るバス成田行くバス
(つくばセンター (夏))
53. 関東に青森ねぶたが踊る秋 同じ日本の祭りと思えば
(まつりつくば (秋))
54. 雪の舞うオレンジ色を通り抜け 過ぎ行く人をテレビで眺める
(定点カメラからの映像 (冬))
55. 御用なくお急ぎでない人ばかり オープンモールにロケ車を囲む
(特撮などのロケ風景 (四季))

並木道

56. ひとつみもさることながら見事なり 五百本の桜のトンネル
(農林研究団地の桜並木 (春))
57. 盂蘭盆会早めに戻る研究所 イチョウ並木はまだ緑色
(工業技術院のイチョウ並木 (夏))
58. 名月や櫛に鈴架け揺り行きて その色変えて曙過ぎる
(筑波大学内 各通りの木 (秋) ケヤキ、ユリノキ、カエデ、スズカケ、アケボノスギ)

59. 江戸期から幾冬越えしか不動松 伊賀七時計も計れぬほどに
(不動松 (冬))
60. この道を行き交う人に自動車に 四季を教えるつくばの並木
(東大通りのトウカエデ並木、西大通りのゆりのき並木、国道408号線モミジバフウ並木、土浦学園線のイチヨウ並木、中央通りの花水木並木 (四季))

つくば市観光施設・商業施設など

61. 匂いたつ君を譬えし花ばかり 芍薬牡丹百合に紫陽花
(つくば牡丹園 (春))
62. 俺たちのゆかりの森さと馴れ初めの ノロケを語るつくばカップル
(豊里ゆかりの森 (春))
63. 入道雲ヒゲを剃るのかその腕を シェーバービルの脇にのぼして
(三井ビル (夏))
64. この夏にあの毛玉では暑かろう 思いをよそにじゃれる犬たち
(つくばわんわんランド (夏))
65. 幼虫の落ち葉の下に居るが如^{ごと} 夏の日眠る昆虫標本
(豊里ゆかりの森昆虫館 (秋))
66. 陣中膏ただの蛙のものでなし 売りは芸のみガマの口上
(観光ガマ園 (秋))
67. ハムバーコン手作りしつつ話す 欧州の村の冬の備えを
(筑波ハム (冬))
68. 双峰を間近に望む露天風呂 出湯の湯気に融ける風花
(つくば湯 (冬))
69. 何も無いウィークデイは映画の日 劇場一本レンタル三本
(シネプレックス その周辺 (四季))
70. □□□□ □□□□□□ □□□□ □□□□□□ □□□□□□
(即興で好きな場所をテーマに読む)
- 作例 つくばねのはずむようなるRanRanは そのりょうでこそつとに知らる
(RanRan)
- 作例 大仏の目線で見れば気も広く 憂しと見し世ぞ久しくあれかし
(牛久大仏)

研究施設のある博物館

71. 広き庭屋中かけて巡りみて 狭き日本の縮図という人
(筑波実験植物園)
72. 宇宙一大きな夢を描こうよ ロケット一本クレヨンにして
(宇宙開発事業団筑波宇宙センター)
73. その足で日本全土を知るチャンス 東京までを頑張って跳ぶ
(国土地理院 地図と測量の科学館)
74. 幾万年幾億年の彼方より ハテナに答える地質標本
(産業技術総合研究所 地質標本館)
75. 農林水産業の絃張る柱 母なる地球^{ほし}の恵み調べる
(つくばリサーチギャラリー)

イベントホール

76. いつだって君に何かが新しい そんな表現伝えるホール
(ノバ・ホール)
77. 玉手箱寄せ木の小箱宝石箱 魔法の箱の集まるところ
(カピオ)
78. 画期的案件提言大発見 実現生み出す巨大会議場
(つくば国際会議場「エポカルつくば」)
79. 筑波嶺や食^{みな}べ男女^{ふれあい} 触愛^{うたがき}の歌憎^{ざきょう}き 座興^{ぞく}の俗^{うたがき}とよ里の歌垣
(市民ホール つくばね、やたべ、くきざき、とよさと、ふれあい(荳崎のふれあいプラザ)を詠み込む)
80. 屋下がり風も足留め風ぐほどに 心誘うやアゴラの出し物
(屋外ステージゆかりの森・I&Aガーデン・センター広場・つくばカピオ正面広場・中央公園水の広場)

つくば的なモニュメント類

- 81. 長閑なる春の陽気も無関係 今日も素粒子かけっこしてる
(KEK高エネルギー加速器研究機構の加速器 (春))
- 82. 夕立を集めうけては重からん 天に向いたる巨大パラボラ
(巨大パラボラアンテナ (夏))
- 83. 竜脈の要とならん造形に 長雨の降る芸術の秋
(竜の塔 (秋))
- 84. 冬空の四方を眺むる偉人たち 科学の門は永へとこしえに開く
(万博記念公園内 科学の門 (冬))
- 85. 一年中自然と科学の結界に 守られた都市安全の街
(四神を象徴する柱 (四季))

つくばみらい市

- 86. 桜木の一マイルほど続く道 福岡堰の柔らかな春
(小貝川福岡堰 旧谷和原村)
- 87. 境内にあやつりは舞う炎あげ 綱火が茨城伊奈を彩る
(綱火 (夏))
- 88. 秋風に身を縮めしもカチンコの 音より先は鯨背な江戸っ子
(ワープステーション江戸 (秋))
- 89. 海峡にその名を残す林蔵の 故郷の墓に残る思いを
(間宮林蔵記念館 (冬))
- 90. 稲や藁縋りあう縄の長くある 歴史と伝統未来の展望
(合併 (四季))

守谷市

- 91. 県南の玄関口に逸早くいちはや 列車とともに春訪れる
(守谷市 (春))
- 92. 月並みと言われようとも夏だもの ビールを詠まずに居られるものか
(アサヒビール茨城工場 (夏))
- 93. 常々は書齋派気取る我とても 公園に出てスポーツの秋
(常総運動公園 (秋))
- 94. 冬来ぬと眠り支度の森や川 人も其処此処買出しに出で
(守谷市の川 (冬) 利根川鬼怒川小貝川の「とね」「きぬ」「こかい」と「かわ」「もりや」を詠みこむ)
- 95. 桜木に躑躅木槿に紅葉まで 木々の色あや廻る四季の池
(四季の里公園 (四季))

かず 嘉寿詠み語呂合わせ

- 96.
$$\begin{array}{r} \text{つくば さんろく 　　はしれよ} \\ 29836 \quad 8404 \quad TX \\ \text{せんろ 　　は とおく 　　つづくよ 　　とわに} \\ 1006 = 19 \quad 2294 \quad 10 = 2 \end{array}$$

(筑波山麓 走れよTX 線路は遠く 続くよ永久に)
- 97.
$$\begin{array}{r} \text{つくばから せんろがひかれ 　　しごと増え} \\ 298 - 1006 \quad +4 \quad +5 \quad +10 \\ \text{いち 　　さ 　　と 　　はっ 　　てん 　　よろこばしやな} \\ 1 \quad 3 \quad 10 \quad 8 \quad 10 \quad 4658487 \end{array}$$

(つくばから 線路がひかれ 仕事増え いちさと発展 喜ばしやな)
- 98.
$$\begin{array}{r} \text{皆 　　荷 　　サンキュー 　　ニコニコニコニコ} \\ \hline 7772 \quad = 39 \cdot 2525252525 \dots \\ \text{急行列車 　　しあわせ} \\ (95+95) + (4+4) \end{array}$$

(皆や荷を 乗せて幸せ 急行列車 ありがとうとの 笑顔あふれる)
- 99.
$$\begin{array}{r} \text{くもしろく 　　やまに 　　はなさく 　　とも 　　やさし} \\ 九百四六 　　八万二 　　八七三九 　　十百 　　八三四 \\ \text{みな 　　みに 　　しむや 　　このまちなみ} \\ 三七 　　三二 　　四六八 　　九 　　万千七三 \end{array}$$

(雲白く 山に花咲く 友優し 皆身に染むや ここの町並み)
- 100.
$$\begin{array}{r} \text{つれづれに 　　つくば 　　よむこの 　　ちょうせんも} \\ 二零二零二 　　二九八 　　四六九 　　兆千百 \\ \text{ひやつけい 　　よみなし 　　おくも 　　いっきよう} \\ 百京 　　四三七四 　　億百 　　一京 \end{array}$$

(徒然に筑波詠むこの挑戦も百景詠みなしおくも一興)

